

鹿児島大学農学部附属高隈演習林におけるスギコンテナ苗の植栽について

松野 嘉昭
(農学部附属演習林)

はじめに

近年、林業を取り巻く環境は、木材価格の低迷・高齢化など厳しい状況が続いている。そこで鹿児島大学高隈演習林では、スギ再生林の低コスト化を目的とした育林作業システムの一環として、2011年3月からスギコンテナ苗を皆伐跡地に植栽を実施した。ここでは、2011年3月以降に実施したスギコンテナ苗の植栽地の概況、生育状況ならびに活着率の結果を報告する。

コンテナ苗とは？

コンテナ苗とは、根鉢が成型された鉢付き苗のこと。マルチキャビティコンテナによって育成される。根鉢は、ヤシ殻ピートを主とする培地に根が伸長・充満することで成型される。裸苗と比べて活着率が高くいつでも植えられるという利点があり、ポット苗で問題となる根巻きが生じないという特徴がある。

表1. 2011年3月以降のスギコンテナ苗植栽地概況

植栽年度	項目	概況
2010年度	【植栽場所】	110林班 9小班内 (旧10林班 ろ小班内)
	【植栽年月】	2011年 3月
	【植栽面積】	1.34 ha の一角
	【植栽樹種】	福山町砂田樹苗園産 始良3号スギ苗
	【植栽本数】	1,010本
2011年度	【植栽場所】	102林班 13小班 (旧 2林班 わ3小班)
	【植栽年月】	2012年 3月
	【植栽面積】	0.82 ha
	【植栽樹種】	出水市高橋樹苗園産 タノアカスギ苗
	【植栽本数】	2,500本

調査方法

前述した2ヶ所のスギコンテナ苗植栽ヶ所を対象にそれぞれ縦10m×横10mの方形プロットを設定し、植栽後の生育状況(活着率・生存本数)を調べることにした。(図1、図2)

結果と考察

調査の結果、110林班9小班のプロット調査区内での生存本数は総本数66本中62本であった(活着率94%)。102林班13小班のプロット調査区内での生存本数は総本数23本中22本であった(活着率96%)。よってスギコンテナ苗は順調に活着していることが分かった。今後の課題として、スギコンテナ苗の植栽に1日あたりどれだけの本数が植栽され時間がかかるか引き続き調査を行う予定である。

